

101年目の 夏休み

高校生と
創る演劇
2023
11.3.4.5
Toyohashi Arts Theatre
PLAT

報告書



未来へと続く笑顔

作・演出 吉田小夏

みんなの素晴らしい笑顔。そして、きらきらした瞳。終幕から数か月がたった今、真つ先に浮かぶ思い出は、そのふたつです。

みんな、とは、共にこの作品を創ったみんなのこと。高校生出演者達を筆頭に、高校生スタッフも、この作品にかかわった大人達も。本当に、笑顔が素晴らしい人達が集まって生まれた作品でした。そして、瞳のきら

きは、好奇心や情熱や喜びの時のきらきただけではなく、涙で、きらりと光る時もありました。高校時代とは、かくも、おおいに笑い、おおいに泣く時代であったのだと、彼らと過ごす日々の中で、思い出しました。

精一杯頑張ってくれる彼らをアーティストとして信じる気持ちは、オーディションでの出会いから、千秋楽後のふりかえりの時間まで、ずっと私の中で変わりませんでした。その強さと脆さの両方に尊いものを感じ、今日まで生きてくれてありがとう

と、思わずにはいられてしまいました。難題があった時にも、ひとつつつ向き合い、チームで解決してゆけたことは、みんなの自信になったと思います。劇中歌の歌の調整や、繊細な気持ちを抱く場面など、練習に時間が必要だったシーンもありましたが、そういった創作上の難易度は、演出家の私には、楽しいことのうちでしかありませんでした。

た。稽古を進める上でこれが大変だと感じたものは、インフルエンザの流行との闘いと、テストや学校行事との両立による欠席率との戦いです。学校生活をちゃんと大切にすることもとても大切なテーマなので、この企画ならではの苦労だったと感じ、強く印象に残っています。そんないくつかの戦いはありましたが、誰も欠けることなく全公演を完走出来たことに、今、大きな安堵を感じています。

本番期間中は、上演後に高校生達のご家族からたくさんのご挨拶をいただきました。目にはいっぱい涙を浮かべていたり、眩しい笑顔だったり、その表情は愛そのものといった様子で、とても印象的でした。その時、ご家族がどれほど彼らの創作を支えてくださったのかを思い知り、感謝の気持ちを噛み締めました。また、出演者の通う高校から、備品の貸し出しなどのお力添えもいただきました。家庭や学校という、いくなれば地域ぐるみでの支えの大きな力も感じた公演でした。それは、この企画が長く続いてきた中で、公共劇場として地域との温かな連携を育んできたからこそ、な



のだと思います。

「今回は、物語のある作品を。対話劇としての魅力を。」

これが、劇場からこの企画の作・演出をしてみないか、と最初にお声がけ

ただいた時、私が受け取ったリクエスドでした。実は、青少年との演劇では、彼ら自身の言葉や小さい創作をワークショップで引き出し、コラージュし、集団創作で作品を創ることが多かったのです。今回は、オーディションで出会った高校生出演者のみんなをモチーフに、劇作家として新作を書下ろしする、しかもアテ書きをするという、計画に初めて挑戦しました。劇団での新作の創作とはほぼ変わらないやり方で、劇中歌のチヨイスや歌詞も自身で手がけました。出演者のみんなが魅力的だったので、戯曲を書くのがものすごく楽しかったです。ひとつひとつの役名を考えるだけでわくわくし、初読み合わせで、みんなが自分の役名があることを喜ぶ姿を見たときは、本当に幸せでした。

また、アテ書きでありつつ、再演に耐えうる普遍性のある戯曲を志して書く、高校演劇として上映時間を約60分にする、という点

もビジョンに掲げていました。高校生と創る演劇は、毎年違う作家や演出家に参加しています。高校生出演者やスタッフにはリピーターもいますが、私達創り手は、メリーポピンズのようにふいと現れ、いくつかの魔法を手渡し、去ってゆくという立場です。

節目となる十年目のこの企画に参加出来たこと、いただいたリクエスドに、今改めて、心から感謝します。

私自身、「転校生」(作・演出 平田オリザ)という作品の、初演メンバーとして現役高校生の時に俳優として初舞台を踏みました。そこから、二十年以上続くご縁があることなど、当時は知りませんでした。今回の企画は、そのことの重みを誰よりも知る人間のひとりとして、彼らとしっかりと出会えたかった。この先の彼らの人生が変わるかもしれないという想いを持ち、取り組みました。ここから先、演劇を続けても、続けなくても、それはどうでもよいのです。

ただひとつ、この作品を通して彼らが出会った、時間が場所が、人々が、未来のいつか、ささやかな勇気となることを願ってやみません。

時間のつかいかた

演出助手 日沖和嘉子



じ条件ですね。二度目三度目の参加者の中にはいますが、初めましてと挨拶をしてから関係を作り、イメージの共有をし、作品を立ち上げるって、これ、なかなかのことですよ。プロ同士でも稽古初めは緊張しますし、上手くいかないこともあります。皆さんの吸収の早さ、集中力、仲間への思いやりで「3時間弱」を乗り越えられたと思います。

私の年齢になると、お正月休み明けには蝉が鳴いているくらい時の流れを早く感じるがあります。でも、日は24時間。どんなに時間の流れが早く目も回っても、貴重な3時間弱を乗り越えたあの夏のように、丁寧に物事に向き合っていきたいと思わせてくれる作品でした。

老いも若きも世界中全てのの人に平等に与えられているのが、日が24時間であること。私は以前にもPLATの「市民と創造する演劇」で演出助手をした経験から、まず時間との戦いを覚悟しました。高校生は当然、平日は学校生活をしてからPLATに集まるので稽古時間は実質3時間ありません。我々が普段芝居の稽古にあてる時間に比べると短く、作品を作り上げるための貴重な3時間弱と言えます。遙か昔のことだいたい忘れてしまいました。高校生が毎日学校で過ごす時間は8、9時間くらいでしょうか。すると残りは15、16時間。宿題や受験勉強、部活等、やることいっぱいな高校生が生活をする上でも貴重な3時間弱です。中には豊橋市外から通ってくるメンバーもいましたから往復の時間を考えると、高校生の皆さんにとって時間との戦いに覚悟のいる企画だったことでしょうか。同じ学校ではなく、別々の学校から集まって来る座組であることも、作品に大きく影響します。そこはプロと全く同

真摯に取り組む姿の美しさ

演出助手 土屋杏文



作品創りから本番を終えるまでの怒涛の毎日、とても懐かし、愛おしく感じている。稽古中、私は主に代役として高校生の皆さんと関わっていたが、キャストもスタッフもひとりひとりが、他者への思いやりや人を見つめることに長けていたように思う。また「真面目に楽しむ」姿がとても印象に残っている。小夏さんの作品では、台詞の句読点を守ることや、細かいミサンズやアンプルがかなり重要になってくるのだ。が、おそらく人生で初めて触れるであろう手法に悩みなながらも、まずはトライしてみるその心意気と、真摯に取り組む姿勢に何度も感銘を受けた。

本番が始まる1時間前のこと。みんな緊張でガチガチになってはいないだろうか？と少し心配になり楽屋を覗いてみた。が、私の浅はかな考えは杞憂に終わった。それがにこやかに、賑やかに、しかし自分

数十年後の未来にきっと繋がっていくであろうことが、とても楽しみだ。



出演者紹介

質問……あなたが大切な人と
2人で行きたい場所は
どこですか？

荻原未来音

サンリオピューロランド。サンリオの
クロミちゃんがすごく好きなので、
一緒に写真を撮ったりしたいです。
小さい頃にも家族に
連れて行ってもらった
ことがあるけど、
その時のことは
うっすらとしか
覚えていません。
もう一度、今度は
大切な人と
楽しみたいです。



Mikume Ogiwara

石田英輝

僕が大切な人と
一緒に行きたい場所は
のんほいパークです。
小さい頃から
よく遊んでいた場所で、
他の人よりも詳しく、
園内を案内できるからです。
なので、僕の大切な人と
のんほいパークに行く時は、ゆつくりと動物、
植物、博物館を観て回りたいと思います。



Hideki Ishida

田中亜莉佐

香川県。父が仕事柄、よく香川県の
土産話を聞かせてくれるのですが、
そのうちに香川県のうどんを
食べてみたくまりました。
香川のうどんを食べる
という私の夢を
大切な人と一緒に叶えつつ、
2人でゆつたり
観光もしたいです。



Arisa Tanaka

中尾結菜

名古屋港水族館。
ここで告白してくれた
友達がいて、同じ気持ちでは
なかったけど嬉しくて、
でも驚きのあまり勇気を
出して言ってくれたことへの
感謝とか嬉しい気持ちとかを
伝えられなかったのをすごく後悔しているの
改めて伝えに行きたいです。というか、
普通に楽しかったのでまた行きたい！



Yuuna Nakao

原田昊祁

僕が大切な人と2人で行きたい
場所は、和歌山県にある
那智の滝です。
そこは僕が今まで
行った中で一番綺麗だと
思った場所です。
そこには、大切な人と
行きたいと思いました。



Kota Harada

若林梨奈

私は大切な人と一緒に、映画館に
行きたいです。まず何を観るかを
2人で相談して決めます。
一人で行くときはポップコーンや
ジュースはもつたいないし、
まあいいかと思ってしまうけれど、
誰かと行くときはせつかくだから
買おうかなと思います。
観終わったあとは2人で美味しいものを
食べたいです。



Rina Wakabayashi

小幡千晶

夜のコンビニです。
夜のコンビニっていつもと
少しだけ違うような気がするんです。
静まり返った町を、だいたいジャージを
着ていたら時間かけて
歩いて行くのか、しんとした町に
コンビニだけが明るく光っている感じとか。
日常の中の小さな非日常を
誰かと共有できたらいいなって思います。



Chiaki Obata

竹本陸人

僕は大切な人と一緒に
日本から飛び出て
世界中の国へ飛んで
いきたいです！
そして、日本にいるだけでは
絶対に味わえない経験と感動を
共有したいです。もちろん、
様々な面で大変な事があるとは思いますが、
一緒に頑張れば乗り越えて、無事に仲良く、
ハンコでいっぱいパスポートを抱えて
日本へ帰って来たいです！



Rikuto Takemoto

金子あさひ

御津にあるハートフル
ホールです。昔たかさんの
発表会をこの場所で
経験しました。ここで
経験があったから、
「高校生と創る演劇」にも興味を持ちました。
最後にハートフルホールの舞台上に立ったのは小学生のとき。
自分の成長した姿を、もう一度舞台上に立つて
大切な人に見せたいです。



Asahi Kaneko

菅原三琴

私が通う高校の
演劇部の部室です。
そこで私たちが創る
演劇を観てもらい
たいです。部室は、
私が初めて演劇の世界に
足を踏み入れた場所であり、
大切な仲間たちと出逢えた場所です。
決して綺麗ではないけれど
沢山の素敵な思い出が詰まっています。
私が部活を通して得たものを
その目で観てもらいたいです。



Mikoto Sugahara

古田英

海に行きたいです。
大きな海を見て、波の音を
聞いて、抱えているものは
一度下ろして、何も考えず
一緒にほーっとしたいです。
少しお話をしたら砂浜を歩きます。
行けるころまでずっとずっと歩きます。
疲れたらおにぎりを食べてお昼寝をして、
とっておきのきれいな貝殻を拾って帰ります。
そんな一日を過ごしたいです。



Hana Furuta

101年目の
夏休み

高校生と
創る演劇

『君と歩いた道』

作詞：吉田小夏
原曲：アイルランド民謡 Down By The Salley Gardens
編曲：新田恵

朝のひかり あふれる 君と 歩いた道
今はひとり 見上げる 白い夏の雲
思い出は優しく 今も この胸焦がす
花束を届けよう あの日の僕らに
月のひかり ゆらめく 君と 歩いた海
波の音は静かに 歌声を包む
夢の中でもいい 君の声が聴きたい
涙こぼれ目覚める 八月の夜明け
星のひかり またたく ひとり 歩く町
夕暮れに溶ける 青 金色 桃色
サヨナラは いつか 祈りの光になる
忘れないよ その名を 君と歩く 夏

2月12日[日]	募集開始
5月5日[金・祝]	オーディション申込締切 キャスト希望18名、スタッフ希望2名、計20名の応募があった。
5月20日[土] 21日[日] 28日[日]	ワークショップオーディション ◆20日、21日の第1回オーディションでは2つのグループに分かれシアターゲームと戯曲を読解するワークショップオーディションを行った。 ◆28日の第2回オーディションでは、戯曲の読解に加え課題として出された作文の発表やダンス、アカペラで1人ずつ発表する歌唱審査を実施した。
6月18日[土]~20日[月]	タイトルが『101年目の夏休み』に決定!
8月15日[火]~18日[金]	夏のプレワークショップ 1日目は台風の影響により、オンラインで開催。前半はアートスレーターの田村かのこさんをゲストにお招きし、異なる背景を持つ参加者内で意見を交わしながら、一緒に作品を作る際のコミュニケーションの取り方についてみんなで考える時間になった。午後からは演出の吉田小夏さんのワークがはじまり、シアターゲームを中心としたアイスブレイクと、ムービングの実験、上映台本の試し読みが行われた。
9月1日[金] 2日[土] 15日[金] 24日[日]	自主稽古開始 チケット発売開始 チラシ・ポスター完成 ボイストレーニング・関連企画 まちなか図書館トークイベントを開催
9月25日[月]~10月1日[日]	1週目
10月2日[月]~8日[日]	2週目
9日[月・祝]~15日[日]	3週目
17日[火]~22日[日]	4週目
23日[月]~29日[日]	5週目
10月30日[月]~11月2日[木]	6週目
11月3日[金・祝] 4日[土] 5日[日]	本番 ◆13時・入場者97名 / 18時・入場者103名 ◆13時・入場者68名 / 17時・入場者108名 ◆13時・入場者138名
2024年 3月12日[火]	本番映像上映会



●総入場者数514名

【稽古】第1週目

●9月25日(月) — 10月1日(日)

毎日稽古は、キャスト・スタッフ全員が集まってアップからスタート。台本の読み稽古を行い、作品全体や舞台美術、衣装、小道具などのイメージについて共有し、話し合う時間が設けられた。週の後半から冒頭シーンの立ち稽古を開始。お休みの出演者の代役は高校生スタッフが務めた。作中で印象的に飛び回る差し金の蝶の操作を演出助手の土屋杏文さんより指導を受け、よりリアルな動きを模索した。



【稽古】第2週目

●10月2日(月) — 10月8日(日)

第1週に引き続き立ち稽古が続く。本番のヘアスタイルを実際に試してみるなど、作品の世界観を立ち上げるための実験が続いた。7日には新田恵さんによる歌唱指導が行



丁寧な立ち稽古が続く、登場人物の関係性が見えるようきめ細かな演出がつけられていく。合唱部のシーンの立ち稽古が中心に行われ、ミザンなども決まっていた。14日には衣裳合わせが行われた。衣裳を着てみることで、出演者のキャラクターのイメージを確立していく。

一方で、衣装を着ることで動きが変わるため、衣裳の捌き方の練習も追加された。高校生スタッフはそれぞれの興味を活かして広報活動を展開。Instagramで写真・動画など様々な方法で広報を行った。代役や舞台美術の塗り作業など、スタッフの仕事は多岐にわたった。

【稽古】第3週目

●10月9日(月・祝) — 10月15日(日)

われた。合唱部が舞台の作品のため、発声方法やハーモニー、歌詞の聞こえ方のアドバイスをした。稽古と並行し、舞台美術の製作がスタート。主ホールの舞台上を使って大きな美術を切り出していく様子を高校生キャスト・スタッフが見学し興味津々だった。学校によつてはテスト週間入り、稽古場の隅でテスト勉強をしながら稽古に参加した。



【稽古】第4週目

●10月17日(火) — 10月22日(日)

創造活動室Aでの稽古の最終週。観客に向けて上演する意識を持って、毎日の稽古に真剣に取り組んだ。週末には初めての通し稽古が行われた。作品の全体像が見え、具体的な課題が浮き彫りになった。音響・照明・衣装のプロスタッフの稽古の見学を行ったことで、小屋入りに向けて高校生たちの集中力が上がっていた。高校生スタッフはお客様を迎え入れるため、ホワイエ装飾のアイディア出しを開始。作中の満開の桜から夏休みに向かう様子を表現するために準備を重ねた。

【稽古】第5週目

●10月23日(月) — 10月29日(日)

24日よりアートスペースの舞台美術音響照明の仕込みが始まる。26日より出来上がった舞台に立ち、舞台上の説明を受けた。高校生たちは美術が立体化したことに感激。照明や音響が入り各シーンのチェックが行われた。29日には家族や友人など関係者を招いて



【稽古】第6週目

●10月30日(月) — 11月2日(木)

公開通し稽古を行った。初めて人前で通し稽古を行う緊張感や達成感を味わった。



本番に向けて稽古場では行えなかった入退場の動線や、細かな調整が行われた。稽古の傍ら、高校生スタッフはラジオへ出演し、リスナーに宣伝を行った。ホワイエ装飾に迫り込みがかった。稽古最終日にはゲネプロを行い、本番同様の環境のなかで作品をより良くするために最後まで試行錯誤した。





高校生と創る演劇
101年目の夏休み



高校生スタッフ

質問：あなたが大切な人と2人でいきたい場所はどこですか？

飯塚皓己

カナダとアメリカの国境にあるナイアガラの滝です。僕は中学1年生の時にカナダへ行った際に、ナイアガラの滝を見て、自然の雄大さとその迫りに感動しました。ナイアガラの滝を下から見ると、ツアーがあり、その時も参加したのですが、もし大切な人とそこへ行ったら、もう一度参加したいです。



北野黎

スイスにある広大な自然ののんびり旅したいです。氷河特急という世界一遅い特急に乗り、マッターホルンに向かって一緒に叫んだり、澄んだ空気の中、椅子に腰掛けて眠ることに憧れを抱いています。友達と行くのも素晴らしいと思いますが、大切な人と行く旅はもっと素敵になるでしょう。



倉内瑠音

自然を感じに行きたいです！特に海！！現代社会から飛び出して澄んだ空気を吸いたいです。山や紅葉、川にも行きたいです。大切な人だからこそ、ゆっくり時間が過ぎるのを一緒に過ごしたいです。



水梨遥菜

私が大切な人を連れていきたい場所、それは水族館です。水の中に入ったようなあの雰囲気が大好きです。大きな水槽の前でゆったりと泳ぐ魚の群れを見ると、心が止まっているけど流れているような、そんな不思議な気持ちになります。大切な人を連れて行って、のんびり楽しみたいです。



比嘉タミリス

ふたりで都会に行きたいです。オシャレなお店にいて、お互いに好きな服やバッグなどを買った、可愛いカフェを巡ったりしたいです。



高校生と創る演劇 101年目の夏休み

Staff work

舞台を創作する上で欠かせない高校生スタッフ。今回は5名の高校生スタッフが「101年目の夏休み」を支え、共に作品を作り上げました。スタッフワークは多岐に渡り、それぞれ得意なことを活かして役割分担をしながら取り組みました。

広報

高校生スタッフのはるとタミさんを中心に、稽古中の写真を撮って、Instagramに投稿し広報活動を行った。休憩中のオフショットや、舞台美術作業中をストーリーやリールを駆使して見やすく発信し、沢山の人の見てもらえるよう沢山の工夫を行った。また、やしの実COMにラジオ出演し、リスナーに公演情報をお知らせするなど様々な方法で広報活動を展開した。



代役

レイを中心に、遅刻や欠席者の代役としてサポートに入った。複数の台詞や動線、ミザンスを覚えて伝える代役は、欠かせない存在となった。



舞台美術製作

舞台美術の濱崎さんに教わりながら、舞台美術の床面と窓枠の塗り作業を行った。でこぼこした木材の素材感を活かしながら均一に塗る作業は根気強さが必要な膨大な作業になった。



舞台監督助手

舞台監督の矢島さん指導のもと、高校生スタッフの皓己が劇場入りしてからの舞台裏のサポートを行った。スムーズに衣装の早替えや小道具の入れ替えが行えるよう準備や交換をしたり、安全に舞台を始められるよう舞台上のセッティングをするなど、本番中の重要な役割を果たした。



衣裳・メイク

衣裳の洗濯・アイロンがけを行った。ヘアメイクが得意なスタッフは公演前の準備のサポートを行った。



ホワイエ装飾

瑠音を中心に作品中に印象的に登場する、桜や百合を使用した飾りつけを行った。稽古記録の掲示、来場するお客さんに公演をより楽しんでもらえるよう思考を凝らした。



会場スタッフ

公演当日にパンフレットを渡したり、荷物やプレゼントを預かる仕事をしながらお客様をお迎えした。





1 5月のオーディションワークショップについて

●初対面の人が多く緊張していたが、ベアでストレッチしたり身体を動かすゲームなどによっている人々と関わる事ができたのがとてもよかった。

●オーディションの受付後、部屋に入ると既に昨年の高校生と創る演劇に出演していた人々と緊張したのを覚えている。1日目には演劇の座学的な説明があり、今まであまり触れてこなかった演劇のイロハを知ることができたので、オーディションの結果はどうあれ、良い経験になったなと思った。2日目

1 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	9	1	1	0	0
	スタッフ	2	0	1	0	0
キャスト	長さ・回数	9	2	0	0	0
	内容	2	0	1	0	0

※スタッフ=2名不参加

2 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	11	0	0	0	0
	スタッフ	1	1	2	0	0
キャスト	長さ・回数	10	1	0	0	0
	内容	2	1	1	0	0

2 8月のプレワークショップについて

●オーディションで受かった人との初めての対面だったので、緊張したが、そこでも似顔絵をたため、安心してオーディションを受けることができた。オーディションの内容も、演技や歌やダンスといった本格的なものから、レクリエーションなどもあって楽しかった。また、勉強になることも多く、とても良かった。

●オーディションといわれて、最初はとも緊張していたが、その場にいいたみさんが本当に優しく接してくれたため、安心してオーディションを受けることができた。オーディションの内容も、演技や歌やダンスといった本格的なものから、レクリエーションなどもあって楽しかった。また、勉強になることも多く、とても良かった。

●描いたりストレッチなどで関わる事ができたのがとても良かった。

●1日目が台風のため、劇場に集まることは出来なかったが、創作をする上でのコミュニケーションについての講義があったりなど、とても面白かった。ワークショップから、本読みを行うことに驚いた。楽しかったが、配役も発表され、自分に与えられたことをちゃんと出来るかという不安も大きくなった。これが高校生活で演劇をやる最後の機会になつてもいいように頑張りたいと思った。

●急遽オンライン開催になった日もあったが、オンラインでしかできないことを出来たためおもしろかった。この段階から本番を意識した内容で、とてもわくわくしたのを覚えてい

●何をするか分からなくて不安だったが、キャスト・スタッフとの親交を深めるとも良い機会となった。特に、ベアになってお互いの顔を3分間見続けながら似顔絵を描いたことで、相手の顔を見るのも慣れることができた。また、一緒に劇を創っていくために気をつけなければならぬことについての講座を受けたりと、楽しく劇を創っていくために必要なことを知る機会にもなったのでとても良かった。これは本当に大切に、必要なことだと思った。

3 9月の自主練習について

●高校生同士で場を仕切りながらの練習だったので、高校生同士間の絆や信頼関係を築き

3 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	8	2	1	0	0
	スタッフ	1	1	3	1	0
キャスト	長さ・回数	9	2	0	0	0
	内容	7	3	1	0	0
キャスト	日時	7	3	1	0	0
	スタッフ	2	3	0	0	0

やすく、人間関係が不安だった私にとってすごくありがたい時間だった。

●高校生だけで稽古と言われて、部活動みたいな感じになるかと思っていたが、全然そんなことなく驚いた。大人がいない中でもみんなで協力して稽古をすることで、高校生のなかでの結束がとも強くなった。特に、去年の高校生と創る演劇にも参加していたメンバーには、たくさん助けられた。毎回リーダーが違ったのも良かった。また、これから毎日稽古に行くための準備としても、とても良かった。

●回数は少なめに感じた。でも学校行事(学園祭)の居残り作業などにも参加できたので良かったと思う。

●高校生だけの稽古だったため、成長できているのか分からないまま続いていることが多く、自分には合わなかったなと感じた。でも、毎日演出家の小夏さんからの課題とメッセージをもらったのがすごく嬉しくて、頑張ろうと思えた。それに、続けることの大事さを理解できたのは良かった。

6 公演を終えて①

●公演を終えた現在の感想をお聞かせください。

●当て書きで役をもらったり、自分自身のエピソードがお話に散りばめられていたり、本当に貴重な体験が出来た。自分と役柄がくっついてるからこそすごく消耗したし苦しかったが、その分公演をやり遂げたときの達成感や言葉に表せないくらい大きかった。やっぱり演劇が大好きだなと強く実感した。そして個人的にいつか越えなければいけない大きな壁を今回のこの公演を通じて越えることが出来たので、自分にとって人生の転機とも言える作品になったと思う。

●もっと演劇をしたい、もっと舞台に関わりたかった。一緒に演劇を創り上げた皆さんとまたいつか演劇を創ることが出来たらいいなと思う。

●楽しかった。カーテンコールで皆さんの表情が見えて楽しんでもらえたんだと嬉しい気持ちになった。受験の年でもあり参加することへの迷いはあったが、やってなかつたらきっと後悔していた。高校生だからできること、高校生じゃなきゃできないことが、ここに詰まっている。「高校生と創る演劇」に参加できて本当に本当によかった。みんなのおかげで最高に楽しい高校生活になった。

●キャストになれなかったことにすごく憂鬱になった時期もあったが、大人の方々のサポートのおかげですごく楽しい時間を過ごさせてもらえたことに、感謝している。

4

稽古について

●演劇部や去年の高校生と創る演劇でのつくり方と違うことを求められたため、今回のやり方を飲み込むのに時間がかかった。でも最終的にはそれを良い効果のあることとして理解し、受け入れることが出来た。

●演技力の向上や演劇への知識だけでなく、大人として生きる上での礼儀やマナーも学ぶことができ、高校生である私たちのこれからの人生に大きく影響を与えた期間だったと思う。

●また高校生の僕たちを小夏さんが俳優として見てくれることがとても嬉しかった。

●体育祭やテスト週間などと被ると、体力的にはキツイ時もあったが風邪等にかかることもなく、健康でいられたので良かったと思う。帰りの時間が豊橋在住の人よりもかかるので、優先的に帰らせてもらえたのもとても助かった。

●稽古場全体のコンディションを考えることを気づかせてもらった。全員が集まるときには稽

4 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	7	4	0	0	0
	スタッフ	2	2	1	0	0
キャスト	長さ・回数	8	3	0	0	0
	内容	10	1	0	0	0
キャスト	日時	4	1	0	0	0
	スタッフ	4	1	0	0	0



5 本番について

●500人以上のお客さんに観に来てもらえて嬉しかった。複数回のステージがある場合は、毎回同じくオリテイのものを出すことが大事だということ学んだ。舞台上で起きていることに対して集中しながら

●その時々のお客さんの反応も演技に生かすことができたと思う。5公演もやることで、毎回細かい修正をいれて

- ◆スタッフ仕事内容
- SNS
- 稽古記録
- ホワイエ装飾
- 代役・プロンプ
- 舞台美術製作
- 衣裳管理
- 受付スタッフ
- その他

4-2 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	4	1	0	0	0
	スタッフ	4	1	0	0	0

●古に出られるように体調を整えられた。

●作品が出来上がっていく時間ってなんて幸せなんだと思った。当て書きのためすく人に役が馴染んでいて、舞台装置もイメージしやすい状況がつけられており、どんな先が知りたいたい、もっと観たいと次の稽古が楽しみだった。

●スタッフの仕事は思ったよりやる事が多くてやりがいがあった。途中で舞台美術制作などで稽古場を離れることもあったが、どんどん作品が完成していくのが見れて良かった。舞台美術制作は大変だったが完成した舞台を見て感動した。

5 集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	日時	10	1	0	0	0
	スタッフ	4	0	1	0	0

●各公演ごとにお客さんも演技の具合も違っていて、1公演のみの高校演劇とはまた違う演劇を楽しめたのがすごく印象深かった。

●本番前も舞台裏もみんなが声を掛け合っていて、あふれだしたと思った。キャストもスタッフもみんなが舞台をつくるに頑張っているんだという思いが感じられて幸せだった。直前まですごく緊張していたはずなのに、舞台上に、観客の前

●に立つたときにはそんなことすっかり忘れて、全力で演劇を楽しむことができて気持ち良かった。本当に幸せな時間だった。

6

公演を終えて②

この企画に参加することで当初どんなことを望み、何をしたいと思われましたか？また、それらは実現されましたか？

●去年のこの企画に参加して演劇をつくるって楽しい！と気付いたので、もっと演劇をしたいと思って参加した。いい意味で本当に意味が分からないものを去年つくれたので、演劇と聞いて大抵の人が想像するような、物語がきちんとある演劇をやってみたいとも思っていた。なので、望んだことが全て期待した以上に達成できて嬉しい。

●プロと一緒に演劇を創れる、ということに着かれてこの企画に参加した。演劇の難しさ、厳しさをたくさん学ぶことができた上に、ヘアメイク、場当たりなど、僕が全く知らなかった世界のことも学ぶことができた。それだけでなく、改めて演劇の楽しさ、特にみなさんで一つの作品を創るといふことの楽しさを、胸いっぱい味わうことができた。演劇はときに、例えばそれが演技であったとしても、一緒に作品を創っている仲間、ときには自分自身さえも傷つけて

6
集計結果

		とても満足	満足	どちらともいえない	不満	とても不満
キャスト	満足度	10	1	0	0	0
	スタッフ	4	1	0	0	0

		参加したい	知人に勧めたい	参加できない	参加しないし勧めない
キャスト	来年	6	5	1	0
	スタッフ	3	2	0	0

		継続した方が良い	どちらともいえない	継続しない方が良い
キャスト	継続	11	0	0
	スタッフ	5	0	0

かった。それ以上に、自分が一人の人間として成長できたように思っていることが自分にとって一番よかったと思えている。



7

今後、プラットに対する期待・要望等 ありましたら ご自由に お書きください。

●他のどこでも出来ない体験だと思つので、今後是非この企画を続けてほしい。そして、私自身も観劇がより身近になり今後にも観に行きやすくなったと感じるので、高校

生に対しての無料観劇の招待もぜひ継続してほしい。
●PLATの施設貸し出し、学割あったらいいのかなと思う。
●これからも若者に演劇をもっと広めてほしい！今回の企画に参加して、本当にいろいろな経験ができたので、ぜひこれからも続けてほしい。また、改めてPLATという劇場の良さ、魅力に気付くことができたので、もっと皆さんの人がPLATの良さと魅力に気付けるような企画を、多く用意してくれると嬉しい。でも一番は、PLATがこの豊橋に残り続けてくれること。
●もっと子供たちが演劇に触られるような企画などがあると、地域の子供たちが演劇にもっと興味を持ってもらえるんじゃないかと思う。

豊橋・プラットで あ幕開け

「高校生と創る演劇」10作目

公演目前、出演者ら稽古に汗



通し稽古に励む高校生キャストたち（豊橋市の桜の目とよはし芸術劇場プラットで）

豊橋市にある「豊橋市立芸術劇場プラット」で、10年目を迎える「高校生と創る演劇」の10作目の公演が、11月2日から3日まで、3日間、連続して上演される。出演者は、豊橋市内の高校生と、プロの演出家やスタッフのチームで構成されている。この企画は、高校生が演劇を通じて、自己表現の場をもち、地域文化の発信を担うことを目的としている。今年も、豊橋市立芸術劇場プラットのホールで、10年目を迎える「高校生と創る演劇」の10作目の公演が、11月2日から3日まで、3日間、連続して上演される。出演者は、豊橋市内の高校生と、プロの演出家やスタッフのチームで構成されている。この企画は、高校生が演劇を通じて、自己表現の場をもち、地域文化の発信を担うことを目的としている。

高校生とプロが創る演劇

来月3〜5日とよはし芸術劇場で



プロの演出家やスタッフと地域の高校生が創作した舞台が11月3〜5日、豊橋市の桜の目とよはし芸術劇場プラットで上演される。出演者は、豊橋市内の高校生と、プロの演出家やスタッフのチームで構成されている。

プロの演出家やスタッフと地域の高校生が創作した舞台が11月3〜5日、豊橋市の桜の目とよはし芸術劇場プラットで上演される。出演者は、豊橋市内の高校生と、プロの演出家やスタッフのチームで構成されている。この企画は、高校生が演劇を通じて、自己表現の場をもち、地域文化の発信を担うことを目的としている。

悩みや成長 高校生が演じる

「10年目の夏休み」豊橋で3日から



東三河の魅力取り入れ プロ演劇家と週6稽古

今期脚本を手掛けたのは、東三河を舞台にした。脚本は、東三河の魅力を取り入れた。プロの演出家やスタッフと地域の高校生が創作した舞台が11月3〜5日、豊橋市の桜の目とよはし芸術劇場プラットで上演される。出演者は、豊橋市内の高校生と、プロの演出家やスタッフのチームで構成されている。



スタッフ

- 演出 — 吉田小夏
- 演出助手 — 日沖和嘉子
- 舞台美術 — 土屋杏文
- 衣装 — 竹内陽子
- 音響 — 泉田雄太
- 照明 — 伊藤泰行
- 照明アシスタント — 江花明里
- 舞台監督 — 矢島健
- 発声指導 — 新田恵
- 記録写真 — 伊藤華織
- 記録撮影 — 田中博之
- 宣伝美術 — 共田慎性
- 宣伝写真 — 中川裕樹
- テクニカルマネージャー — 笠井隆行
- 照明 — 池田俊晴
- 音響 — 佐原宏信
- 舞台 — 片桐健
- 芸術文化プロデューサー — 矢作勝義
- 制作 — 伴朱音、加賀茅捺
- 票券 — 上栗陽子、石田晶子
- 制作助手 — 城早乙合

- 協力 — 青☆組、田村かこ、山崎精肉店、エムエム豊橋、ティート
- 主催 — 公益財団法人豊橋文化振興財団
- 共催 — 公益社団法人豊橋文化施設協会
- 企画制作 — 豊橋市
- 特別協賛 — サラグループ
- 助成 — 文化庁文化芸術振興補助金、豊橋市文化芸術振興補助金、豊橋市文化芸術振興補助金、豊橋市文化芸術振興補助金
- 独立行政法人日本芸術文化振興会

新聞記事 Newspaper article

※掲載の記事・写真は各新聞社の許諾を得て掲載しています。